

令和7年度 校内研修全体計画

平戸市立度島中学校

1 研究主題

「確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成」

～読解力向上と協働的な学びによる思考力・判断力・表現力等の向上に向けた取り組みを通して～

2 主題設定の理由

本校では、令和4年度より継続して「読解力」に重点を置いて研究を進めている。2030年には超スマート社会（Society5.0）の到来が予想され、これからの時代を生き抜くために必要な力を育むことが求められている。必要な力とは、「文章や図表から読み取ったことを基にして、分かったことや考えたことを相手に伝える力」であり、その土台となるのが、文章や図表等から情報を正確に読み取る「読解力」である。各種学力調査でも、情報を活用する能力や記述式の問題など、「読解力」と関係する力について各教科で課題が見られることから、授業だけではなく、朝活動など学校生活全体を通して読解力向上に向けた取組を継続して行うことで、生徒の学びを進化させ、生きる力へとつなげたい。

また、読み解いたことに加え自分の考えも織り交ぜながらアウトプットする力もつけさせたい。今年度の生徒は話し合い活動の場面で消極的になってしまう傾向にある。日々の授業でグループ活動や話し合いの場面を設定し、意見交換の機会を多く経験することで、発信する力を中心とした表現力の向上を目指す。さらに今年度は初任者や若手教員の割合が多いことから、全教員で学ぶ姿勢を持ち、研修テーマに沿って実践を行い、お互いが高め合うことができる研修の機会としたい。「生徒がわかる授業」を行うことで、主題である「確かな学力を身につけ」ることにつながると考える。

3 研究仮説

- 「長崎県授業改善メソッド」を踏まえた授業づくりやリーディングスキルを重視した朝活動を行うことで、生徒は読解力の視点を意識しながら活動に取り組み、読解力を向上させることができるであろう。
- 毎時間の授業や生徒会を中心としたコミュニケーション活動を行うことで、企画力を養ったり、自分の考えをまとめて発表したりするといった発信する力を向上させることができるであろう。

4 研究内容

（1）朝活動の充実

- ・ よむ yomu ワークシートや読み方レスキューを用いた読解力向上のための取組
- ・ コグトレオンラインを用いた認知能力向上のための取組
- ・ 数学・英語の補充による基礎学力の向上のための取組
- ・ 生徒会を中心としたコミュニケーション活動による発信する力の向上のための取組

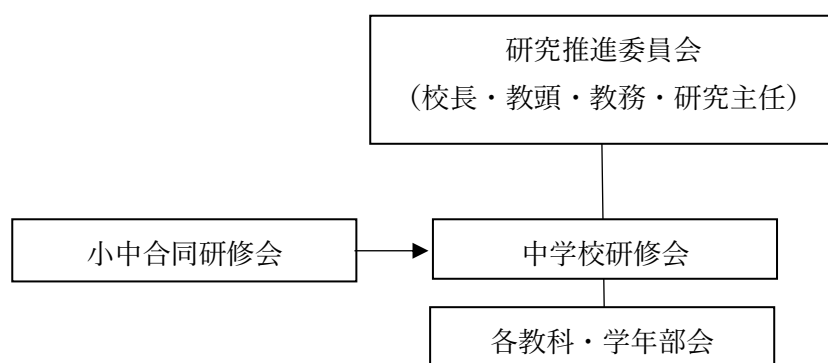
(2) 授業改善

- ・ 学び方スタンダードの提示と定着
- ・ 「めあて」と「まとめ・振り返り」の整合性を意識した授業づくり
- ・ 1人1回の研究授業実施と全員参観

5 研究組織

- (1) 研究推進委員会は、校長・教頭・教務主任・研究主任で構成し、必要に応じて実施する。
- (2) 必要に応じて小中合同研修会を行う。

組織図



6 年間予定

1学期	・ 朝の諸活動についての検討→共通理解→実施 ・ 全体計画、年間活動の検討 ・ 3観点評価についての研修 ・ 初任者研修研究授業【道德】(6月) 全教員参観・放課後授業研究会 ・ 提案授業【英語】(6～7月) ・ 生徒への授業の振り返りアンケート
夏休み	・ 1学期の取り組み反省・改善案の検討 ・ 小中合同研修の企画・実施
2～3学期	・ 研究授業の実施(1人1回) 全教員参観・放課後授業反省会 ・ 小中合同での授業研究会(年1回以上実施)
冬休み	・ 生徒への授業の振り返りアンケート ・ 2学期の取り組み反省・改善案の検討 ・ 3学期に向けて
3学期	・ 標準学力調査の結果分析 ・ 生徒への授業の振り返りアンケート ・ 今年度の反省、次年度に向けて